

立命館大学理工学部

正 員

春名 攻

愛知県

正 員

大島 良彦

立命館大学大学院

学生員

○蜂谷 智樹

1. はじめに

近年、ライフスタイルの多様化傾向の進展のもとになっている国民の生活価値観の変化は、経済的側面から生活の質的側面へと移行しつつある。それに伴い、余暇活動を充実させるためのアメニティー性やアミューズメント性の高いリゾート空間の整備が、都市生活者の余暇活動の充実にとって重要なテーマとなってきている。

都市における効果的なリゾート空間の開発計画をよりよい方向へ展開させるためには、需要者の余暇行動の実態を把握し、それに分析を加えていくことが重要であると考え、需要者サイドからのアプローチ分析に焦点をあてた。特に本研究では比較的多くの自由時間と、自由に使うことのできるお金を持ち、かつ他の年齢層よりも活動的であると考えられる10代後半から20代前半で京阪神を通学圏としている学生を調査分析のターゲットとした。また、学生の余暇行動に着目した「リゾート施設に対するニーズ」や「リゾート地選択行動」に関する調査を行った。そして、この調査結果に基づいて、リゾート地選択行動に影響を与える要因を抽出し、どのような要因が最も影響を与えるかを明確にすることとした。さらに、学生層を対象としたリゾート地選択行動メカニズムを解明していくこととした。最後に、これらの研究成果をもとにリゾート開発計画策定の際の有効な支援情報としてとりまとめることとした。

2. リゾート地選択行動の仮説と調査の概要

(1) リゾート地選択行動の仮説

リゾート地選択行動メカニズムは、まずあら

ゆる欲求が集合し、それらが複雑にからみあってリゾート欲求が生まれ、リゾート地の選択へと移行していくという2段階のプロセスを仮定した。そして、リゾート欲求が顕在化する際に影響を与えると考えられる要因を、外的要因と内的要因の2要因に分類した。さらにリゾート地選択の際に影響を与えると考えられる要因を、個人的要因、情報要因、時期的要因の3要因に分類した。以下にこのような要因について説明することとする。

① 内的要因

「リゾート地へ行きたい」というリゾート欲求は強くても、「お金や時間がない」、「渋滞にまきこまれて苦勞するより、自宅でのんびりするほうがよい」、「一緒に外出する仲間がそろわない」等の理由で外出しない人も少なくない。このようにリゾート施設への外出は、その人の考え方（パーソナリティー）によって規定されると仮定し、これを内的要因とした。

② 外的要因

リゾート施設への外出は、その人の考え方という内的要因によって規定されるだけでなく、その人の置かれているライフステージによっても影響されると仮定し、これを外的要因とした。

③ 情報要因

「リゾート地へ行きたい」というリゾート欲求が顕在化すれば、次には「どこのリゾート地へ出かけるか」という選択が重要になってくる。そこで、リゾート地の選択には、その人の得る情報によって、選択する地域のイメージ、印象が決定されると仮定し、これを情報要因とした。

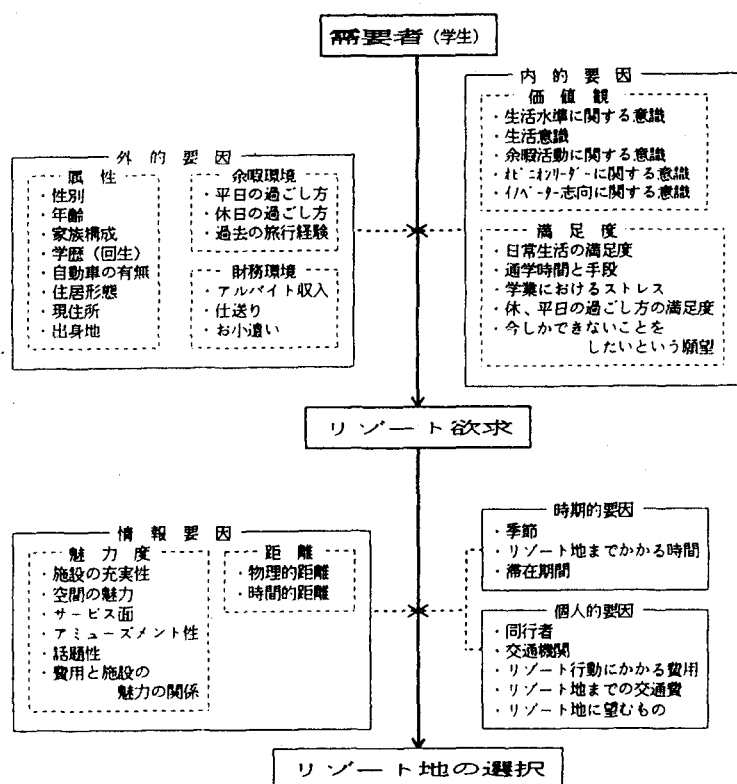


図1 リゾート地選択行動メカニズムの仮説

④時期的要因

日本には四季が存在し、春には花見、夏には海水浴、秋には紅葉、冬にはスキーというように四季折々のリゾート行動が存在する。そこで、リゾート地の選択では時期的な影響が大きく、リゾート施設を訪れる時間帯も昼と夜では選択が変わってくるものと仮定したが、ここではこれを時期的要因とした。

⑤個人的要因

実際にリゾート地を選択するにあたっては、個人的な理由によるところも大きいと仮定し、これを個人的要因とした。

なお、アンケート調査項目はリゾート地選択行動メカニズムの仮説をもとに設計した。

(リゾート地選択行動メカニズムの仮説は図1に示すとおりである。)

(2) アンケート調査の概要

本研究では、「都市における余暇(リゾート)施設整備に関するアンケート」を、京阪神を通

学圏としている学生を対象として行いここでは、マーケティング的手法を参考としてアンケート調査を実施した。調査期間は平成5年12月から平成6年1月で、男女合計220部を配布し、158部、(回収率71.8%)を回収した。

3. リゾート地選択行動の影響要因に関する実証的分析と考察

アンケート調査結果にもとづいて以下のような実証的分析を行った。そして、①単純集計結果よりリゾート欲求の顕在化に影響を与える要因や、リゾート地選択に影響を与える要因を抽出した。また、②①の考察にもとづき、林の数量化理論第2類を適用し、リゾート地選択行動影響要因を明確にした。そして、③これらにもとづいて、リゾート地選択行動メカニズムを明確にし、リゾート客のニーズを反

映させたリゾート開発計画を策定していくための支援情報としてとりまとめた。

(1) リゾート地選択行動の影響要因に関する考察

ここでは、アンケート調査で得られた調査結果にもとづいて、リゾート行動を起こした主体がどのような特性を持っているかを把握するために、各項目についての単純集計ならびにクロス集計分析を行った。そして、この考察結果にもとづいて、リゾート地選択行動に影響を及ぼすと考えられる要因を抽出した。

(リゾート地選択行動の影響要因としては表1に示すような項目が求められた。)

(2) 数量化2類を適用したリゾート地選択行動影響要因に関する考察

(1)での単純集計やクロス集計分析により抽出したリゾート地選択行動要因を用いて、林の数量化理論第2類による高次分析を行った。こ

表1 リゾート地選択行動の影響要因

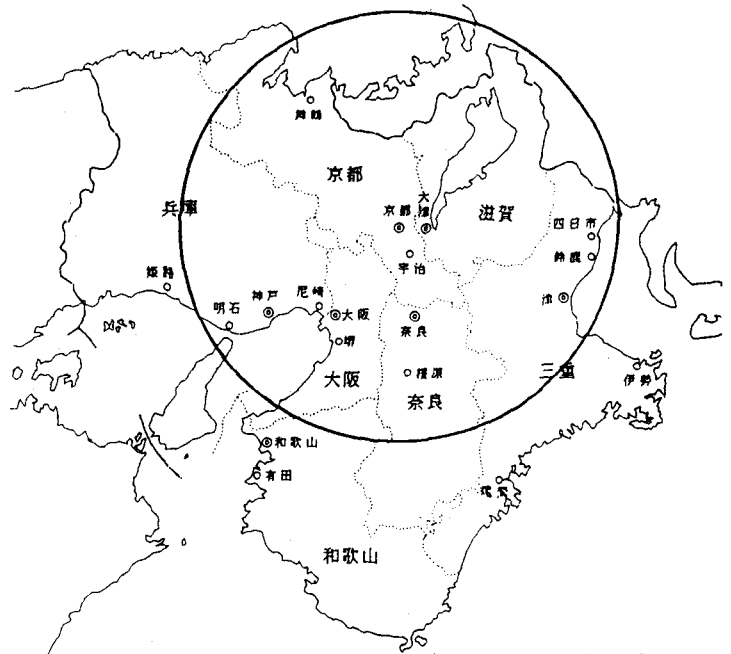
- ・性別
- ・お小遣い
- ・日常生活の満足度
- ・生活意識
- ・同行者
- ・平日の過ごし方の満足度
- ・過去の旅行経験(3泊以内)
- ・過去の旅行経験(4泊以上)
- ・休日の過ごし方の満足度
- ・リゾート行動にかかる費用
- ・費用と施設の魅力の関係
- ・リゾート地までかかる時間(自動車)
- ・リゾート地までかかる時間(電車・バス)
- ・リゾート地までの交通費
- ・リゾート地に望むもの
- ・施設の充実性
- ・空間の魅力
- ・アミューズメント性
- ・話題性
- ・サービス面

を性別とし、1泊の場合と3泊の場合で前述したリゾート地選択行動要因を説明変数として分析を加えることとした。この分析結果をみると1泊滞在におけるリゾート地の選択に影響を与える要因は以下のものであった。すなわち、範囲の大きさから考えると第1位が「サービス面」であり、以下順に「費用と施設の魅力の関係」、「リゾート地に望むもの」、「同行者」、「話題性」となった。特に、第1位のサービスにおいては、男性では、金銭面の配慮、女性では、トイレやごみ箱、灰皿、食堂などの清潔さなどの衛生面の配慮を重要視していることから、男性には節約家も多いことがわかった。3泊滞在中でリゾート地の選択に影響を与える要因は、範囲の大きさから考えて「サービス面」であり、以下順に「日常生活の満足度」、「空間の魅力」、「リゾート地に望むもの」、「施設の充実性」となっている。また第1位のサー

分析により、リゾート地選択行動に影響を与える主要な要因群を明確にした。

①まず第一に、外的基準

ビス面においては、男性は金銭面の配慮を、女性はトイレやごみ箱、灰皿、食堂などの清潔さといった衛生面の配慮を重要視していることが理解できる。さらに、1泊滞在と3泊滞在の場合の比較において顕著な差が現れたものを以下に示すと次のようである。まず、両者に影響力のある要因は、「サービス」、「リゾート地に望むもの」であったが、差が現れたのは「男性のリゾート地に望むもの」であった。そして滞在期間が長くなれば、「体力づくり」や「運動不足の解消」など体を動かすことを目的とし、滞在期間が短くなれば、「くつろぐ」、「リフレッシュする」など精神的に満足することを目的としていることがわかった。②次にリゾート地の違いを外的基準にとるとともに、1泊滞在の場合を考えた場合では、近郊地と遠隔地に区別して分析を加えた。また、3泊滞在では、山岳型と海洋型に区別してリゾート地の選択の意識の違いを考察することとした。ここで、近郊地とは、図2に示すように京都市を中心とした半径60キロメートル圏内を設定した。



*実線で囲まれた地域が京都市を中心とした半径60キロメートル圏を示す

図2 近郊地と遠隔地の区別

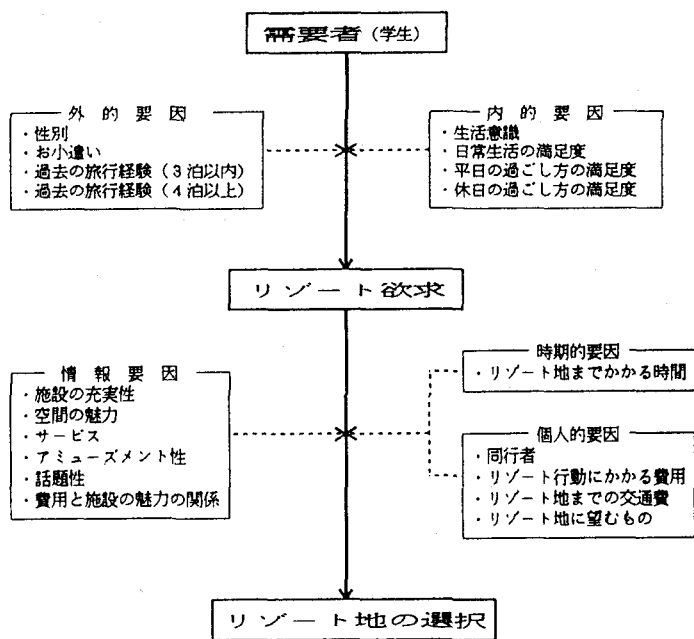


図3 リゾート地選択行動メカニズム

表2 リゾート地選択行動におけるキーワード

男 性	女 性
儉約志向 ・金銭面への配慮	美しさ志向 ・衛生面への配慮 ・自然、緑の豊富さ

そして、近郊地と遠隔地、山岳型と海洋型に属さないと考えられるリゾート地は除外することとした。まず1泊滞在の場合であるが、リゾート地の選択に影響を与える要因は、範囲の大きさから考えて「過去の旅行経験（4泊以上）」であり、以下順に「施設の充実性」、「お小遣い」、「リゾート行動にかかる費用」、「日常生活の満足度」となっていた。つまり、リゾート地の選択には金銭的な配慮が重要となることが理解できた。さらに、現在の余暇環境に満足していない学生に日常生活の満足度の影響が強いことが理解できた。次に3泊滞在の場合であるが、リゾート地の選択に影響を与える第1の要因は、「休日の過ごし方の満足度」

であり、以下順に「費用と施設の魅力の関係」、「リゾート行動にかかる費用」、「平日の過ごし方の満足度」、「サービスの魅力」となった。つまり、3泊滞在の場合、リゾート地の選択には学生生活のストレス発散を満足させるようなものを望んでいるものと考えられた。

以上の考察をもとにして学生を対象としたリゾート地選択行動メカニズムを提案するとともに、性別による、リゾート地選択行動のキーワードを提案することとした。このリゾート地選択行動メカニズムは図3に、リゾート地選択行動のキーワードは表2に示した。）

4. おわりに

以上の分析によってリゾート地を実際に選択する場合には性別によって違いが表れることが明らかになった。男性では滞在期間に関係なく、リゾート行動にかかる費用やその際の交通費などのような金銭面の配慮を重要視するような儉約志向が、女性ではトイレやゴミ箱、食堂の清潔さなどのような衛生面の配慮や、リゾート地に自然や緑を求めるといような美しさ志向が強いということがわかった。しかしながら、リゾート開発は環境保全との二律相反する問題など多面的な課題を多くかかえており、総合的な計画論として論じるためには、さらなる多角的な検討が今後とも必要であると考えている。

【参考文献】

- 1) 山田孝弘：リゾート行動モデル作成のための要因関連分析に関する研究、立命館大学卒業論文、1989
- 2) 山田孝弘：観光行動のモデル化に関する基礎研究、立命館大学修士論文、1991